

北海道：大雪山・十勝岳連峰縦走

- ◆日程 2022年7月16日(土)～21日(木)
- ◆メンバー L：SD、YN、MD、OT、TY

総括

大雪山から十勝連峰への縦走は去年の8月に計画実行したが台風のため完遂できず白雲岳避難小屋で引き返した。来年は天候が安定して花も綺麗な7月に来ようと約束し、約束通り再チャレンジすることになった。

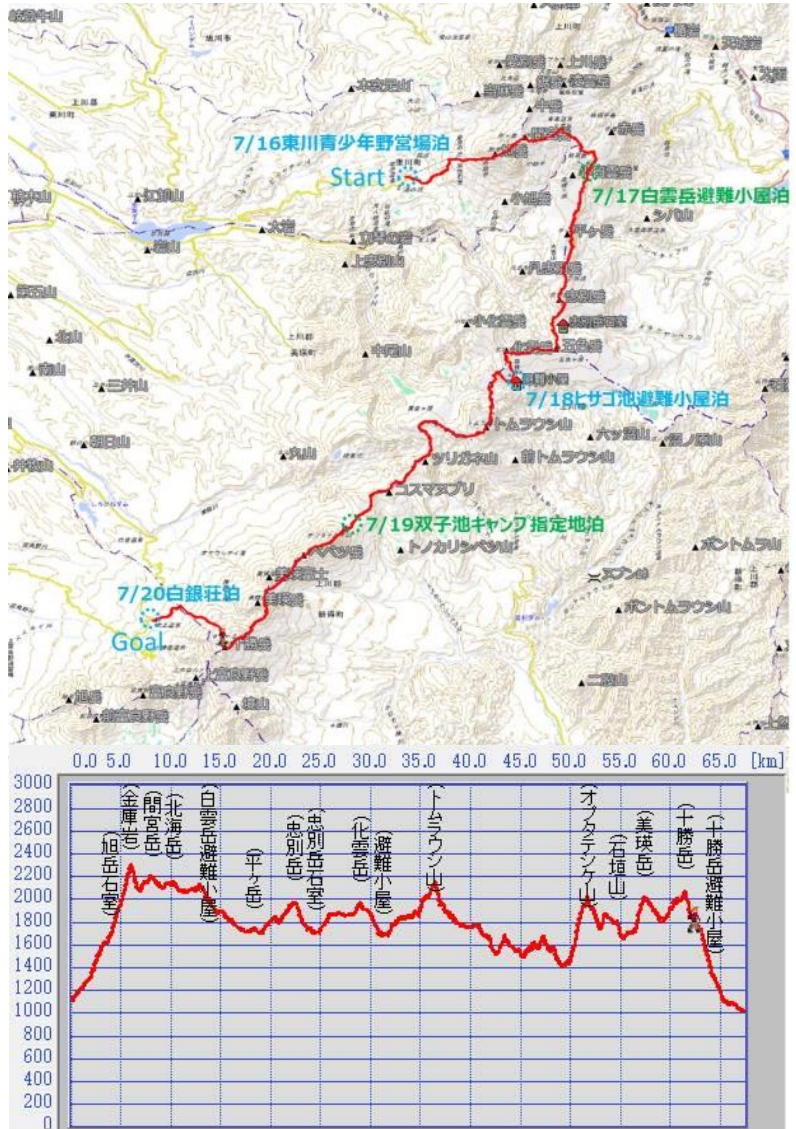
確かに花は満開でまさにお花畑の中を歩くことも多く素晴らしい光景だったが、天候は不安定で雨に降られることも多く、夏山とは思えない寒さに悩まされた。

またトムラウシからはほとんど登山者が通らないルートのため道が荒れていて、ハイマツの藪漕ぎが延々と続き体力を奪っていた。

私自身も途中体調不良によりリタイア寸前まで追い込まれたが仲間に助けられ何とか完走することが出来た。

今回の山行は最後の最後まで気の抜けないハードな山行だったが、全員が最後まで諦めることなく力と知恵を出し合い協力して歩みを進めることができた。まさにチームワークの勝利である。

(記：SD)



7月16日(土) 天候：曇り時々雨

大雪山縦走初日。羽田から旭川空港へ移動。飛行機は結構揺れた。旭川空港のコンビニでガスボンベを購入。旭岳キャンプ場行きのバスに乗ると去年と同じように YNさんと合流する。30分程でキャンプ場に到着し受付を済ませてテントを張る。テントの中で早速宴会が始まり明日からの長い縦走に向けてパーティーの一致団結を図った。(記：SD)

7月17日(日) 天候：曇りのち雨

6時スタートのロープウェイに乗るべく旭岳青少年野営場を5時半スタートして6時前にはロープウェイ乗車口で待つ。しかしながら、6時にロープウェイ窓口に行くが15m以上の強風の為ロープウェイは運行見合わせとの事。皆で相談してSDリーダの最終判断により姿見まで自力徒歩で2時間半のアルバイトとなる。→それもそれなりであった。

ロープウェイ着駅の姿見付近での風はやや強かったが、旭岳に登るにつれ風は徐々に強まってきた。昨年来たときは旭岳から北海岳への景色はさすが北海道大雪山系の景色が楽しめたが今回は霧の中であった。しかしながら、昨年8月には見られなかったチングルマの見事な群生は7月の北海道に期待できる咲きぶりであった。

間宮岳分岐、荒井岳を過ぎ、北海岳を通過した頃から霧雨が雨に変わり白雲岳避難小屋/キャンプ場に着くころには雨足も強くなり白雲岳避難小屋に逃げ込んだ。

テント場には3~4張りのテントがあったが避難小屋泊まりにする。結構ずぶ濡れになっていた。すでに避難小屋には停滞している静岡からきている女性の方と2名ほどの登山客がくつろいでいた。その後、若者2名、年配風2名の登山者が宿泊。

ツアー客十数名の予約が入っていた様だが天候不順でキャンセルになった模様。

それなりにゆっくり一夜を過ごせた。

(記：YN)

夕食は牛丼+紅ショウガ+お吸い物 (YN 担当)

朝食は塩ラーメン+乾燥野菜+餅

CT：旭岳青少年野営場 5：30 - ロープウェイ乗車場 6：30 - 姿見 9：15/9：30 -
旭岳 10：15 - 北海岳 12：45/13:00 - 白雲岳避難小屋 15：00



7月18日(月・祝) 天候：雨時々曇のち晴

縦走2日目、白雲岳避難小屋からヒサゴ沼避難小屋までのルートとなる。今回で一番短いルートとなる。

前日の雨での乾きは追いつかず、湿った登山靴、ザック、カップを着込んで出発となった。

そして本日も雨スタートである。まずは私が先頭で、なだらかな様々な花が咲く稜線を歩いていく。日が差していれば色が映えて、より綺麗だったかもしれない。また、ヒグマがいないか辺りを見渡ししながらも、足元にもヒグマの痕跡がないかも気にかける。熊撃退スプレーを持っている私は、万が一の場合は先頭に立ちただかりヒグマを撃退しなければならない。イメージトレーニングだけは完璧だ。



途中、TYさんが首に何かある？と皆に問いかけた。まさかの「ダニ」であった。

当然ながら取れそうもない。試しに、エタノールや虫よけスプレーをかけてみるが、やはりとれる気配がない。あきらめて後日病院へ行ってもらうことにした(後々自然に取れていたが・・・)。ここからは皆、ダニに怯える歩きとなる。藪こぎをしようものなら、精神的に体がかゆい気がしてお互いの体を見せ合いダニチェックをするのだ。ヒルよりタチが悪い・・・。

忠別岳、五色岳を越えた五色原付近だろうか、先頭を歩いていた OT さんがヒグマを発見した。雪渓の上をユックリと歩いている。ただ、かなり距離がある。目測で 1km 位であろうか・・・？ 安心の距離であったからだが、ヒグマを見られたことに喜びを感じた。

化雲岳を越えてからはヒサゴ避難小屋に向けて下り始める。雪渓を越え、川の流れのような登山道を経て避難小屋に到着。誰もいない貸切であった。ヒサゴ沼の存在も風情があつてロケも素晴らしい。雨もやみ、うっすらと日も差している。皆、山道具を干して乾かすことができたことは嬉しいことだ。

ちなみに、夜食はスープスパゲティー。コンソメスープをベースにシメジ、マイタケ、ベーコンによるコクに深みを増したスープに、太めのスパゲティーを絡めて食すのである。本来は、最終日の担当であったが、食材で 2~3 キロという重量であったため、泣きをいれさせていただきました。
(記：MD)

CT:白雲岳避難小屋 5:10 - 忠別岳 9:15/9:40 - 五色岳 11:30/45 - 化雲岳-13:00 -
ヒサゴ沼避難小屋 14:00

7月19日(火) 天候：晴れのち雨

縦走3日目の本日は 12.5h のロングコースだ。SD さんと MD さんの調子が万全ではないが共同装備を皆で分担しヒサゴ沼を出発した。沼の彼方にエゾ鹿の群れが見えた。雪渓を詰めて縦走路に上がるあたりの岩場でナキウサギを見た。「キュウイ」という鳴き声はそこらじゅうで聞いたが姿を見たのはこの時限りだった。この日の午前中は縦走中で最も天気良く北海道らしい雄大な世界を堪能した。トムラウシまでの日本庭園やロックガーデンは平らな地形に奇岩がゴロゴロしていて面白かった。トムラウシ山はさすがに百名山で多くの登山者がいた。岩場ではオコジョがひょっこり顔を出していた。本日の宿営地の双子池キャンプ場はまだまだ遠い。疲労が溜まっているが黙々と歩いた。三川台では地図上に水場記号があるが見つめることが出来ず水の余裕が無くなってきた。そしてここからが今回のルートのコア部といえる這い松ゾーンに突入した。トムラウシ~十勝岳間は地元の人でも縦走する人は少なく道の整備が悪い。這い松が容赦なくザックに引っ掛かる。這って突破すること数回、疲労した体には堪えた。そうこうしているうちに雨も降って来た。キャンプ場の手前でテントを張るのにジャストフィットな広場を見つけたがまたしても水場マークの水場が見つからずキャンプ場まで進んだ。

一層雨が激しくなった中で設営した。13 時間以上行動し雨に打たれ疲れ切った体で夕食をとり明日の行動水を煮沸して 21 時頃就寝した。

7/19 夕 親子丼、味噌汁

7/28 朝 スープパスタ

(記：TY)



<トムラウシ山>



<十勝岳オプタテシケ山縦走路>

CT：ヒサゴ沼避難小屋 4:08 - 天沼 6:00 - 北沼 7:36 - トムラウシ 8:06 - 三川台
10:54-ツリガネ山の肩 12:49 - 美真岳 15:45-双子池キャンプ指定地 17:27

7月20日(水) 天候：雨時々曇のち晴

三時半起床、昨夕からの雨が小降りになったところでびしょ濡れ泥だらけのテントを撤収。みな疲れ気味だが、今日 12 時間の行程を歩き切れれば「下界で温泉に浸かりビールが飲める」と気力を振り絞る。本日は TYさんと私とで休憩 1 本毎の先頭交代として消耗を最小限に抑える作戦で行く。幕营地直上にあるオプタテシケ山は十勝岳連峰最北に位置する。ここの急登を開始。いよいよ十勝岳連峰だ。程なく雨が降り出し、上から靴の中まで汗と雨水で今日もびしょり。

崩落で痩せた尾根を登りきると山頂。次第に雨が上がり霧も薄まる。なだらかな尾根を経て、ピークを繋いでいく。目前に十勝岳連峰が連なるのが薄っすら見え、一番奥左側(東側)に富士山型のピーク(下ホロカメットク山)も。緩やかに下降し、美瑛富士の麓に。ここのトラバースルートでは再び藪漕ぎ。松の枝が固くて手強い。次に美瑛岳への登り、山頂直下に来た時点で、目論見通り下山可能と判断し、温泉宿(白銀荘)に電話で予約。勇んで歩を進める。外輪山状の緩やかな斜面を進み再び標高を上げていく。富士山様の火山灰でザレた斜面が次第に斜度を増す。緩やかな稜線に上がるとどこかの惑星のような不毛の平原が続く。山頂直下の岩の急斜面では火山



ガスの影響が少ないのか植物が出現。少し和む。山頂に着いてみると眺望はないが、とにかく予定時間内に最後のピークに立てたことを皆喜び合う。後は温泉宿に向けて下るだけだ。下山後は何を食べたいかなど話しながら進む。ただ、溶岩や火山灰がゴロゴロしているのでコケるとウェアごと破けてケガをすることになるため慎重に進む。晴れ間が見えるなか、十勝岳避難小屋に到着しほっと一息。更に進んで登山口からは林道様の平坦な道をトラバースだ。が、歩けど宿が見えてこない。渡渉点付近で地図を片手に位置確認しながら歩く。と、「つまずいた!」と思ったのも束の間、前のめりに転倒。最後の最後で手のひらを擦りむいた。直ちに手当をし、気を取り直して歩行再開し、到着。温泉では傷を濡らさぬよう気を付け、ビールを控えるほろ苦い晩となった。

毎日雨に降られ、様々なトラブルにも見舞われながら長時間歩行が続いたが、皆で助け合いながら楽しく進むことが出来た。自分の中ではこの縦走をやり遂げたら大抵の縦走は出来るようになると思いながら歩いてきた。後の縦走でその真価を問いたい。

夕飯：乾燥食材のカレー

朝食：蕎麦

(記：OT)

CT：キャンプ指定地 5:00 - オプタテシケ山 7:30/7:45 - ベベツ岳 9:00/9:20 -
美瑛岳 12:00/12:30 - 十勝岳 14:55/15:15 - 吹上温泉白銀荘 19:00